

おのきた

# 尾北校長室から

第37号



## 自己成就的予言 ～ ガラスの天井を破る

「限界は、自分の心がつくっている」という話を紹介し、皆さんに大いなる期待を寄せたい。

米国の心理学者、R・ローゼンタールという人が「ピグマリオン効果」というものを提唱した。それは小学生に知能テストをし、それをもとに担任の先生に「将来伸びる子ども」を教えた実験である。結果は、本当に1年後のテストではその子どもの学力・意欲が向上したという。知能テストが良かったのだから当然と思われる。しかしこれには仕掛けがあり、5人に1人の、伸びるとされた子どもは、でたらめな結果によるものだった。にもかかわらず、である。心理学では、他者からの期待を受けることは、学習や作業の成果を上げることに影響を与えている、とされる。



この「期待を受ける」ことは、自分自身に対しても同じことが言える。「自己成就的予言」と言われ、自分が「できる」と信じて行動すると、そのことが成功することにつながるというものである。ちなみに、ピグマリオンとは、ギリシャ神話の中の王で、彫刻の才に長けていて、自分が彫った魅力的な女性像に恋をし、人間に変わることを熱烈に願うようになった。その姿を見た神が像に生命を与え、ピグマリオン王はその女性と結婚できた。強く願うからこそ実現した、という話である。

反対に、「ガラスの天井」は、目に見えない壁があるという意味で用いられることがある。ノミは1m近くジャンプできる。ところがピーカーに入れガラス板で蓋をすると、飛び上がってはぶつかることを繰り返すうちに、やがてガラス板の少し下までしかジャンプしなくなり、それはガラス板を外しても変わらないのだという。1mも跳べるのに、数cmのジャンプを繰り返す、自分にはその何十倍もの力があるとは夢にも思わずに…。



さて、皆さんにとっての「ガラス板」があるとすれば、それは何だろうか？ そこに本当にガラス板はあるのだろうか？ 自分の限界は、恐らくは自分の心がつくっているだけではないのか？人は、挑戦してみればじめてそこにも自分の能力があったことに気付くものである。同じく米国の「自動車王」と称されるヘンリー・フォードという人は、「自分が想像したとおりの自分を実現する。自分は成功すると思おうが、成功しないと思おうが、それは100%正しい。」という名言を残している。信じることのみが現実となっていく、という示唆である。

また、中世ルネッサンス期の芸術家、ミケランジェロ曰く、「人類にとっての最大の危険は、高い目標を掲げて失敗することではない。低い目標を掲げて達成することだ」との言葉を残している。高く理想を掲げて挑戦してはじめて、想像していた以上の自分にもなれる——本校に入学してきた君たちは、一人一人誰もが内に大きな可能性を秘めている。それを追い求めていか、そのままにしておくか、皆さんの心の問題である。

“Can I?” — “Yes, you can!” できる、できる！ やってみよう！！